

「栽培管理システム」+「データを産地内で共有し、次期の栽培に活用」

<取組概要>

水稻において、栽培管理システムから得られたデータ（地力・収量・生育状況等）をアカウント連携者である管内JA営農指導員と共有し、当該地域の他の農業者のデータと比較しながら、翌年度の作付けに向けたデータ分析を行う。

データ分析結果に基づき、自動操舵トラクタやドローンを活用した可変施肥等を行い、地力の均質化を図り、生産性向上に繋げる。

<申請者>

株式会社 相川ファーム（秋田県湯沢市）

◆経営概況（2024年12月時点）

経営規模：水稻 35ha、さくらんぼ 52a、
ネギ30a、杉苗15万本

従業員数：7名

<対象品目>

水稻

<計画の実施期間>

5年間

<生産方式革新事業活動のイメージ 等>



栽培管理システムによるデータ分析



収量センサ付きコンバインによる
稲刈り

～認定を受けて一言～

認定にあたり、弊社では、栽培管理システムから得られたデータをJAと共有し、翌年度の作付けに向けたデータ分析を行い、生産性の向上に繋がっていきたいと考えております。今後も、関係機関や管内農家と連携を取りながら、地域の農業発展に尽力してまいります。